

03.07.16

まちづくりと政策イノベーション 発表

人口還流現象の実態とその要因に関する研究
- 兵庫県淡路島を事例に

政策メディア研究科 修士課程2年

片桐 暁史 / akifumi@sfc.keio.ac.jp

本日のテーマ

前回の指摘

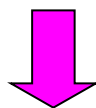
過去の研究と
比較して

共通点
新規性

2つの視点を
アンケートに
いかに組込むか

前回の指摘

政策変数
として取れる
モノは何か



実態解明を
主軸に

アンケート
の構造

対象者の類型

質問項目の構造

研究の目的

問題意識

中山間地域・・・国土面積の7割
農業生産の4割
若年層流出による過疎・高齢化

↓↓↓

人口還流の正確な実態把握は
わが国の地方圏の将来に重要課題

研究の目的

兵庫県淡路島を事例に、
人口還流の実態と要因を解明

どのような人が、
どのような条件の下で帰還し、
どのような役割を果たしているか

研究の意義

既往研究・・・国調、住基
(×) Uターンの正確な実数把握
同窓会名簿分析により
市町村単位での帰還先の特定
淡路島・・・
人口移動を左右する様々な要素



研究の流れ

2001卒業制
～
2002.05

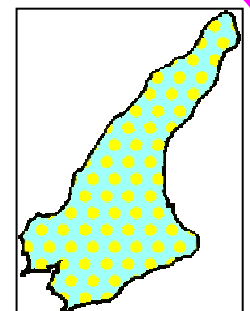
< 昨年度 >

国勢調査
住民基本台帳
事業所統計

現地巡検
役場ヒアリング

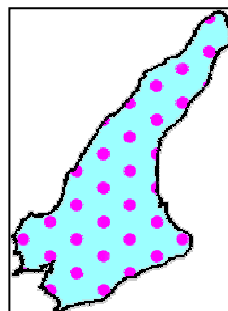
既往研究調査

ト
持家
実の
善策



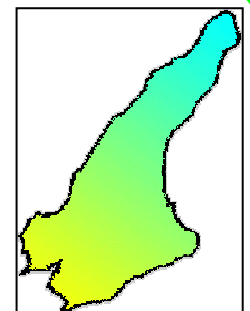
ヒアリング
調査

- ・ミクロな把握
- ・地域性
- ・役場/Uターン支援
センターの現状



考察
地域情報構築

- ・あるべき条件と
果たせる可能性
- ・GISを用いた
地域情報の構築



アンケート調査概要

アンケート調査の目的 「淡路島への帰還実態」

どんな人が、いつ、なぜ帰還しているの？
帰還している人、帰還していない人の違いは？
それは時代とともにどのように変化してきているの？

アンケート調査の対象・比較法

16期生（1945年生まれ）
淡路島在住者（帰還者）

コーホート間
の比較

帰還・非帰還
の比較

16期生（1945年生まれ）
淡路島非在住者（非帰還者）

コーホート間
の比較

26期生（1955年生まれ）
淡路島在住者（帰還者）

コーホート間
の比較

帰還・非帰還
の比較

26期生（1955年生まれ）
淡路島非在住者（非帰還者）

コーホート間
の比較

41期生（1970年生まれ）
淡路島在住者（帰還者）

帰還・非帰還
の比較

41期生（1970年生まれ）
淡路島非在住者（非帰還者）

わが国における「人口還流移動研究」

帰還者の量的把握

人口移動の材料・・・国勢調査報告、住民基本台帳人口移動報告
出身地が不明なため「Uターン者」数の見積りが不可
Uターン者数の把握には、出身地と現住地、その間の居住経歴が必要
データ上の制約から、量的把握すら進展していない

近年 国立社会保障・人口問題研究所「人口移動調査」
荒井・江崎・川口・・・長野・宮崎県出身男性へのアンケート調査

Uターン発生メカニズムの解明

Uターンの発生メカニズム

「どのようなライフステージ上の段階において帰還が行なわれるのか」
という視点が必要

人口研「人口移動調査」・・・ライフイベント時における居住地のみ
自治体による意向調査・・・Uターン非実行者にのみ

世代間比較等を通じた「Uターン」発生メカニズム解明の試みなし

「共通点」と「新規性」

共通点

荒井・江崎・川口による研究

長野県出身男性、3世代に対するアンケート調査

家族構成・学歴・居住経歴・移住理由・職歴など

Uターンの時期、出身市町村志向、Uターン傾向の強まりを確認

Uターンの要因・阻害要因を解明

本研究の位置づけ より一般性を持たせるための事例的研究

新規性・オリジナリティ

- ・男性だけでなく女性の移動実態
- ・Uターン実行後の再流出の実態・要因
- ・地方圏出身者の高齢期における移動・居住
- ・Uターン後の、地域における役割
- ・淡路地域の特殊性
(明石大橋・鳴門大橋、震災と復興、五色町の福祉サービスなど)

本研究の位置づけ

これら新規性を
導き出せる
アンケート調査を通し
新しい知見を示す

アンケート対象者の類型

居住パターンによる類型

Uターン非実行者

- 1) ずっと島内に住んでいる
- 2) 島外に出て、戻ってきていない

Uターン実行者

- 1) 島外就職→転職Uターン
- 2) 島外進学→就職Uターン
- 3) 島外進学→島外就職
→転職Uターン

再流出者

- 1) 島外就職→転職U→島外再流出
- 2) 島外進学→就職U→島外再流出
- 3) 島外進学→島外就職→転職U
→島外再流出

男女による分類

男性

女性・・職は夫のものに注目

コーホートによる分類

26期生(1955生) 現在48歳
このコーホートを中心に分析
きょうだいが少ない頃
→「Uターンしないと」?

16期生(1945生) 現在58歳
定年後・高齢期の居留意向
きょうだいの多い頃
→「Uターンしなくても」?

41期生(1970生) 現在33歳
若年層の移動実態・意向

アンケートの構造

全員

基本属性（年齢・性別・きょうだい数・学歴・家族構成・職業など）
居住経歴（高校在学時～現在、類型化）
将来の居住・移動に対する意向（居住地、親との関係・子との関係）

Ｕターン非実行者

Ｕターン検討の有無
時期・家族
検討時の行動
Ｕターンの誘引・**阻害**
今後の意向

Ｕターン実行者

Ｕターンの時期・家族
Ｕターンの**誘引**・阻害
Ｕターン前後の変化
（職・収入・満足）
地域における役割

再流出者

Ｕターンの時期・家族
Ｕターンの誘引・阻害
Ｕターン前後の変化
再流出の時期・家族
再流出の理由
再流出前後の変化

全員

淡路地域に対する満足・不満
Ｕターン促進策としてどのような手段が必要と思うか
Ｕターンに対する自由意見、ヒアリングの可否、結果概要の要否

今後の予定

2001卒業制作
～
2002.05

既往研究/統計
仮説立て

アンケート作成・実施
2003.07～08

回収・分析
2003夏休み

ヒアリング

2003秋

考察

2003秋～冬